

News Release

広報 第 30-0008
令和 3 年 4 月吉日



報道関係者 各位

おかげ横丁 「端午の節句」開催のお知らせ
(諸事情により内容に一部変更が生じることがございます。予めご了承ください。)



風薫り、草萌える 5 月。真っ青な空に悠々と泳ぐ鯉のぼり。「端午の節句」は奈良時代から続く古い行事です。菖蒲の節句ともいわれ、お風呂に入れて楽しむ「菖蒲湯」などで無病息災を願います。江戸時代以降は、菖蒲を「尚武」という言葉にかけて読み、勇ましい鎧や兜を飾り、鯉のぼりを立てて、男子の健やかな成長を願う行事となりました。季節を知らせる行事としてご取材ください。

◇開催日時：令和3年4月29日（木・昭和の日）～5月5日（水・こどもの日）

10：00～17：00

◇開催場所：おかげ横丁一帯

*おかげ横丁総合案内 0596-23-8838

軒菖蒲（のきしょうぶ） / 家に邪気や災厄が入り込むを防ぐ為
強い香りで邪気を払う菖蒲や蓬などを束にして5月4日の夜に玄関につるします。
横丁一帯では、夕方より各店舗の軒先につるす作業を行います。



※例年開催しておりましたが、「鎧武者に大変身」は新型コロナウイルス感染拡大予防のため、実施を自粛いたします。

報道関係者様用

お問い合わせ先

(株)伊勢福 広報/大谷和佳子
TEL : 0596(23)8827 FAX : 0596(23)8814 mail : w_otani@isefuku.com

■端午の節句企画展「^{せっくのぼり}節句 幟の展示」/おかげ横丁 大黒ホール

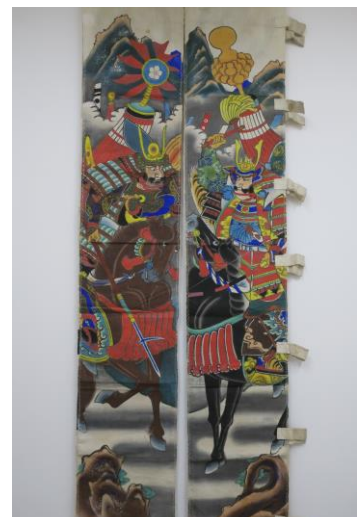
「^{せっくのぼり}節句 幟」とは、鯉のぼりと同様に男の子の健やかな成長を願って家の前などに飾られる色鮮やかな旗のことです。もともと武士の軍旗だったものが、時代を経て子供の成長を祈る庶民の文化となりました。雨風にさらされる消耗品であったことから、現存するものが少なく、現在では貴重な江戸から明治期に制作された職人による幟33点を展示いたします。



大江山（江戸時代後期・19世紀）



五虎將軍（江戸時代末期・19世紀）



豊臣秀吉と加藤清正（明治時代後期・19世紀）

登龍門（江戸時代後期・19世紀）/「龍門」とは、中国・黄河の上流にある急流のこと。龍門を上り切った鯉は龍になるという伝説があったことから、登龍門は出世のシンボルとして端午の幟にも数多く登場します。江戸時代中期、幟に付属した小旗に鯉の形のものが発展し、現在の鯉のぼりとなりました。

■端午の節句市

節句飾りや縁起物、ちまき・よもぎ餅・菖蒲など
家族みんなで端午の節句をお祝いする品々が屋台に並びます。



■体験教室

「レトロ身体測定」（無料）/孫の屋三太前
「横丁かみしばい」（無料）/かみしばい広場
「ミニこいのぼりづくり」（350円）/特設屋台



5月4日 ときわまんさく差し上げます /伊勢路栽苑
みどりの日にちなみ、伊勢神宮など限られた場所にのみ自生する
「ときわまんさく」の苗を無料配布します。
午前10時より なくなり次第終了



